

■奥村五百子 男装で討幕運動、夫と死別・離婚の後、大陸で活動、戦争の悲惨さを見て{愛国婦人会}を創立した。

おくむらいおこ

阿部正弘首座1845= 肥前国唐津で、格式高い東本願寺派釜山海高德寺住職で京都二条家から派遣された奥村了寛の長女に生まれる。母は唐津藩士の長女浅子。

2つ上の兄円心も、周囲の尊敬を集めるような環境で、

幼時から男まさりの快活な性格に育ち、女のくせに、女らしくの声に猛然と立ち向かって論破、

万次郎帰国・1852= 7歳：両親説得して、唐津神社宮司の私塾に通う。

ペリー来航・1853= 8歳：

開国開港・・・1854= 9歳：

桜田門外変・1860=15歳：両親の猛反対を押し切って、藩の大坂留守役していた叔父を頼って、京都・大坂に上り、見聞広める。

8月18日政変 1863=18歳：勤王派だった父兄の影響を受け、これを助けるべく、父からの密書を携え、男装で萩藩に使いし、怪しむ関所番人に見得を切り、後に有名になる。

以後、しばしば京都・山口・福岡などに使いし、野村望東尼・西郷隆盛らとも接する。

薩摩藩士密航1865=20歳：政変で、三条実美ら公卿が大宰府に逃れて来た際にも、父から派遣され、便宜を図る。

薩長同盟・・・1866=21歳：福成寺住職大友法忍と結婚したが、

明治維新・・・1868=23歳：父が死去。

戊辰戦争終・1869=24歳：夫も死去する不幸。高德寺に戻り、母・兄と暮らすうち、

初の日刊新聞1870=25歳：幕府追及を逃れて来ていた藤田東湖の門下生の水戸藩浪士鯉淵彦五郎と再婚を望み、母・兄の反対で家出、

学問のすすめ1872=27歳：

明治6年政変 1873=28歳：

2女1男をもうけ、

西南戦争・・・1877=32歳：この年、兄円心が、東本願寺から派遣されて、朝鮮に渡り、以後、5年かけて、3都市に別院建立。

古着商などして生活苦と闘いながら、養蚕業の奨励など、地方産業発展活動を行い、

明治14年政変1881=36歳：

布教のため朝鮮に渡るなどし、近所の人たちからも頼りにされていたが、

下級士族出身の夫の国事に対する無気力に耐えられず、

国民之友始・1887=42歳：3児を連れて、離婚。以後、本格的に社会運動に身を投じて行く。

帝国憲法発布1889=44歳：唐津藩主で老中だった小笠原長行の子長生と意気投合、以後、終生支援を受け、

帝国議会始・1890=45歳：第一回総選挙に当り、唐津から立候補した天野為之陣営の指揮をとり、

大本教・・・1892=47歳：選挙妨害一層激しくなった第二回総選挙では、天野らを襲った暴漢らを一喝して、窮地を救い、

大隈重信が後援者になるなど、政官界・皇室・軍幹部らに人脈が広がって行く。

日清戦争始・1894=49歳：

朝鮮の志士金玉均らとも交流、

八幡製鉄始・1897=52歳：東本願寺から派遣されて、兄円心とともに朝鮮に渡り、

子規句歌革新1898=53歳：光州に養蚕・農業指導の実業学校を設立。幼稚園も設立し、長女を園長にする。

Bushidou・・・1899=54歳：寒さによる気管支炎と朝鮮の人たちの反日感情などで衰弱して、帰国するも、回復すると、

ビア/国産化・1900=55歳：*東本願寺より派遣され、北清事変勃発後、皇軍慰問使に加わって巡歴、戦争の悲惨さを目撃し、傷病兵の

救護、遺家族救済の事業を興す必要を痛感し、対露主戦派の近衛篤磨らに働きかけると、

田中正造直訴1901=56歳：*実質的には近衛らが主導して、{愛国婦人会}が創立され、自らは象徴的存在として自由な身で、以後、軍

国主義を婦人層に広めるべく、全国全国各地方支部遊説に奔走するが、

日露戦争始・1904=58歳：大分市の演説会場で咯血。日露戦争が勃発するや、

日露戦争終・1905=59歳：*病身をおして渡満し、愛国婦人会の活動の先頭に立つも、病状が限界に達し、

満鉄発足・・・1906=61歳：*引退して、

韓国反日暴動1907=62歳：没した。